

実践活動報告：オンライン地域日本語教室における「交流」について

『生活の漢字』をかんがえる会 川崎百世

1. 背景

地域の日本語教室は、日本語を学ぶことだけが目的ではないと考えている。日本で生活している外国人が、日本語や漢字を学ぶことが生活の質の向上へとつながるような日本語教室となるよう常に考えながら授業内容や教材を検討し実施している。特に、子育て世代においては子育てや仕事が優先しがちであり、自分のために教室に通い、勉強の時間を確保するのが難しい。また、子育ての悩み等を共有、相談できる人や場が必要不可欠である。そこで、以下の2つを目的とした教室を2021年度よりオンラインで実施している。教室の目的：①子育てに関する漢字学習②受講者同士の交流の場となること。

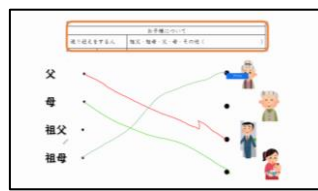
2. 教室と課題

対象教室：「こそだての かんじクラス」2024年1月～2月 全7回

活動形式：オンライン 講師1人、補助者2名、受講者10～15人

教室の目的：①子育てに関する漢字学習

②受講者同士の交流の場となること



〈「こそだての かんじクラス」の様子〉

課題：目的①については試行錯誤の途中ではあるが、オンラインツールの活用などにより回を重ねる度に受講者が受身にならない参加型の授業へと徐々に改善するなど、対面とは異なった漢字学習の実施ができています。しかし、教室目的②の達成が難しいと感じています。

対面で実施している他の漢字教室では、受講者同士の交流が盛んであり、分からないことを互いに教え合い、毎回の活動のテーマについて話し合うことができるよう授業の進め方など工夫をしている。また、同じ母国話者同士や、同じ地域に住む人同士などが自発的に交流するなど複数のやり取りが発生し教室が漢字を学ぶ場であり、参加者のコミュニケーションの場にもなっている。このように、オンラインにおいても何らかの形で交流の場を兼ね備えることができなかと考えている。



「生活の漢字教室」(対面)の様子

3. 実践を通して「行ったこと」「考えたこと」の変遷

考えたこと：オンラインでは物理的に画面を通してしかやりとりができないため、実際には学習者同士の交流の場となるほどのやりとりは難しい。そこで、オンライン教室における受講者同士の交流の

定義自体を再度整理し考え直す必要があると考えた。

↓

オンラインで実施する漢字学習の回（6回）における「交流」について

- ・授業に参加し他の受講者の事を知ることや、ブレイクアウトルームなどで授業のテーマについて自分の事を話すことが、交流となる。
- ・参加者の交流が生まれるよう意識して授業の内容を考える。
- ・少人数のブレイクアウトルームに分かれ、授業テーマ等についてある程度の時間を確保する。
- ・各ブレイクアウトには、生活の漢字をかんがえる会のメンバーが少なくとも1人は入るよう配置し、会話が滞った際や、発言者が偏っている場合には介入できるよう準備しておくが、基本的には受講者の会話の流れを尊重する。
- ・授業中は全員がマイクをオンにしておき、つぶやきなどを含め発言が聞こえるようにする。
- ・内容を詰め込みすぎない。
- ・話題提供となるような材料を準備しておく。

対面で実施する交流イベントの回（1回）における「交流」について

- ・オンラインにとらわれず、全7回の内、1回は対面で実施する交流イベントを実施。
- ・受講者同士の直接的な交流を行う。
- ・イベントの目的を外国人保護者同士の交流とした。毎日子育てに奮闘している外国人保護者同士が集い、交流や情報交換をし、楽しむ。
- ・日本で子育てをしている外国人スタッフが主導となり、外国人保護者としての自らの経験や考えを基にプログラムを企画、実施した。日本の子どもの歌や、ダンス、子どものお弁当について話す、などの活動を入れた。日本人スタッフはサポート役。

4. 地域日本語教育コーディネーターとして果たした役割

- ・オンラインにおいてどのような交流が可能かについて講師らと共に話し合いを続けた。
- ・オンラインか対面かではなく目的に応じて両方を活用するという選択肢を提案、実施した。
- ・外国人スタッフが中心となり進めていく対面のイベントを企画、実施した。
- ・運営委員会や本研修で、活動メンバー以外の方からも多くのアドバイスをいただいた。
- ・他地域で行われているオンライン教室や子育て関連の教室の情報を収集した。
- ・3月に他団体で実施されているオンライン日本語教室を見学させていただく予定。

5. 今後に向けて

- ・オンラインで実施する「こそだての かんじクラス」のニーズはあると感じているが、継続が難しい。継続に向けて今後も検討していきたい。
- ・本研修に参加し、オンライン教室を実施しているところが多くあることがわかった。オンラインの地域日本語教室における「交流」の在り方については今後も検討していきたい。
- ・本研修に参加し、日本語教師が地域日本語教育コーディネーターとして果たせる役割が少し分かったため、機会があれば今後生かしていきたいと感じた。